Topics▌九州

西鉄柳川駅周辺地区におけるまちづくりと市民参加の取り組み

高尾 忠志　九州大学持続可能な社会のための決断科学センター

西鉄柳川駅周辺整備は，東西街区の分断解消，朝夕の通勤通学時間帯における駅前広場の慢性的な渋滞の解消，水都柳川の玄関口にふさわしい魅力の形成を目標とし，西口広場の改修，東口広場および東西広場をつなぐ自由通路の新設，自由通路とリンクする駅舎の一部リニューアルから構成され，西日本鉄道や柳川市の複数の主体にまたがって事業が行われた。

事業推進にあたっては，事業者間の調整を行い一体的な空間デザインを実現するための協議を行う「西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議（委員長：出口敦（東京大学大学院教授））」と，整備案への市民意見の反映や柳川らしいデザインの実現，完成後の利活用主体の形成を目的とした「市民ワークショップ」「柳川らしいデザインを考える会」を設置した。

特に後者2つの場においては，市民と設計を担当する専門家が直接対話を行い，交通計画の妥当性の確認，完成後の利活用イメージを踏まえた環境空間のデザイン，柳川の方々のスケール感にあわせた設計案の修正が行われた。さらにそこから施工段階における「ものづくりワークショップ」に展開し，地域の子供たちの手によって杉ベンチと杉フェンス等が製作され，広場に設置された。完成後も朝ヨガやハロウィンパーティ等，市民による駅前広場の活用が進んでいる。

なお，こうした一連の取り組みは，日本都市計画学会九州支部九州まちづくり賞，グッドデザイン賞，ウッドデザイン賞，都市景観大賞景観まちづくり活動・教育部門大賞（国土交通大臣賞）等を受賞している。

駅を起点にした官民協働のまちづくりは中心市街地にも展開し，商店街エリアのワークショップから市民団体「柳川暮らしつぐ会」が発足し，古民家を再生した花屋やカフェがオープンし，それと並行して中心市街地全体の案内サインの整理・改修を検討する市民会議が行われ，今年度から工事が行われる予定である。

Topics▌九州

五島列島・久賀島　重要文化的景観の持続に向けた官民協働のまちづくり

柴田 久　福岡大学工学部社会デザイン工学科

平成19年「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界文化遺産暫定リストに登録された。その構成資産候補「旧五輪教会堂」のある久賀島は，平成23年に文化財保護法に基づく「重要文化的景観」として島全体が選定されている。選定に至る過程では，五島市役所と大学が連携し，文化的景観としての保存調査，保存計画策定，さらに景観法に基づく市景観条例の制定，景観計画の策定がなされた。ここでは法定計画の枠組みを超え，過疎化に苦しむ島の課題解決を目指した官民協働の地域づくりとして，市役所関係各課の連携を含めた計画の策定が図られている。

具体的には，景観に関する規制基準のみを定めた従来型の景観計画でなく，島民の「暮らし」を守る総合的な施策展開を示した「久賀島景観まちづくり計画」が策定されている。策定プロセスでは，島民の参加する「久賀島まちづくり協議会」と関係課の参加する「庁内調整会議」が設置され，計6回の協議会と島民への個別ヒアリング等，計画の実効性が十分に議論されている。現在，これら一連の取り組みの成果として，文化的景観価値を重視した地場材料に拘る山道整備や「久賀島文化的景観整備活用委員会」の設置とこれによる公共事業デザインコントロールが継続して行われている。また平成25年には特産品開発，販売に関わる事業として，廃校を活用しながら観光受入体制の整備，地域コミュニティの場の創出等を目指す「久賀島ファーム」が設立された。いわば島民の景観保全意識の向上が，体験型観光，地域ブランド品開発といった島の経済的な活性化策へのチャレンジ精神を生み出したかたちである。これらの活動の成果は，平成27年度第2回「九州まちづくり賞」を受賞している。

旧五輪教会堂のある久賀島

整備活用委員会の現地視察